

船舶事故等調査報告書

平成23年1月27日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2010横第173号	
事故等種類	衝突（棧橋）	
発生日時	平成22年7月15日 08時26分ごろ	
発生場所	京浜港横浜区 神奈川県横浜市企業専用棧橋付近 （概位 北緯35°24.42′ 東経139°39.96′）	
事故等調査の経過	平成22年9月2日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報		
船種船名、総トン数	油タンカー 北扇丸 ^{ほくせん} 、2,986トン	
船舶番号、船舶所有者等	127109、昭和油槽船株式会社	
乗組員等に関する情報	船長、三級海技士（航海） 機関長、三級海技士（機関）	
死傷者等	なし	
損傷	主発電機燃料流量計歯車摩耗、右舷船尾擦過（塗料剥離）、棧橋角部擦過	
事故等の経過	<p>本船は、船長及び機関長ほか10人が乗り組み、空倉で、企業専用棧橋（以下「本件棧橋」という。）に接近中、本件棧橋まで約100mとなったとき、主発電機が停止してブラックアウトし、操船不能となった。</p> <p>本船は、船首が本件棧橋まで約70mに近づいたとき、左舷錨を投下して本件棧橋への衝突を避けようとしたが、平成22年7月15日08時26分ごろ、右舷船尾が本件棧橋先端の角に衝突した。</p> <p>本船は、08時35分ごろ、燃料流量計をバイパスして主発電機原動機を再始動し、電源を復旧したのち、そのまま中ノ瀬錨地にえい航されて仮泊した。</p> <p>主発電機原動機は、燃料流量計のオーバル歯車の歯面が異常摩耗し、歯車同士が乗り上がって固着したことが確認された。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 南南西、風力 5</p> <p>海象：波高 約0.5m</p>	
その他の事項	<p>発電機は、ディーゼル原動機による主発電機（320kW）の外に、主機が駆動する軸発電機（352kW）及びスラスタ用発電機（230kW）が装備されており、いずれも船内電力系統への給電が可能であった。</p> <p>軸発電機は、出入港スタンバイ中は回転数が低過ぎて、船内電力系統への給電ができなかった。</p> <p>スラスタ用発電機は、着棧のため運転されていたが、ブラックアウトによって制御不能となった。</p> <p>主発電機原動機の燃料流量計は、7年前に取り替えられたものであったが、定期的な開放点検が行われていなかった。</p>	
分析	乗組員等の関与	なし
	船体・機関等の関与	あり
	気象・海象の関与	あり
	判明した事項の解析	本船は、京浜港横浜区において、風力5の南南

	<p>西風が吹く状況下、着岸のため極微速で本件棧橋に接近中、主発電機原動機が停止して操船不能となり、本件棧橋に衝突したものと考えられる。</p> <p>主発電機原動機は、燃料流量計のオーバル歯車が、歯面の摩耗で乗り上がって固着したため、燃料供給が止まって停止したものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、京浜港横浜区において、風力5の南南西風が吹く状況下、本件棧橋に接近中、発電機原動機が停止してブラックアウトしたため、操船不能となり、右舷船尾の外板が、本件棧橋に衝突したことにより発生したものと考えられる。</p>